

[調査会NEWS 630](20.5.16)

■定例記者会見のお知らせ

以下の通り定例記者会見を行います。報道関係各位にはご多忙中恐縮ですがご対応をよろしくお願いいたします。

1、日時 5月30日（金） 15：00～

※会見の前に理事会を開催しますので開始時間が若干遅れますがご了承下さい。

2、場所 日本クリーニングセンタービル3F会議室

文京区後楽2-3-10（調査会事務所の北側二つ目のビルです）

3、内容

調査会の今後の活動について（新たなネットワーク等）
バルーンプロジェクトの報告
他

■調査会役員の参加する講演会等の予定

（公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場合がありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります）。

★5月17日（土）14：00～「中村三奈子さんをさがす会」集会（同会主催）

●川崎コミュニティーセンター 電話0258-35-3935

新潟県長岡市川崎6丁目

●専務理事真鍋が参加

●問い合わせ：中村クニさん（三奈子さんのお母さん 090-4543-0597）

★6月8日（日） 13:00～特定失踪者問題を考える市民集会（同集会実行委員会主催）

※当初予定は15日でしたが1週間早まりました。

●稚内市・稚内総合文化センター

●専務理事真鍋が参加

●問い合わせ： 加地隆夫実行委員長 （090-5954-4884）

★6月15日（日） 19:00～ 特定失踪者安達俊之さんを思う会集会（同会主催）

●白山市（はくさんし）白山町(しらやままち)集会場

●代表荒木が参加

●問い合わせ： 河原秀昭代表（090-8704-5295）

★6月28日（土） 13:30～拉致問題講演会（庄内ブルーリボンの会主催）

●鶴岡市・中央公民館

●代表荒木が参加

●問い合わせ： 佐藤忠智会長（090-7327-1346）

★6月28日（土） 18:30～拉致問題講演会（庄内ブルーリボンの会主催）

●酒田市・中央文化センター

●代表荒木が参加

●問い合わせ： 佐藤忠智会長（090-7327-1346）

★7月6日（日） 13:00～「北朝鮮による拉致・人権問題を考える神奈川県民集会」（救う会神奈川主催）

●横浜情報文化センター（みなとみらい線日本大通り駅前）

●専務理事真鍋が参加

●問い合わせ： 090（9816）2187又は

sukukaikanagawa@hotmail.com

★8月2日（土） 13:30～ 特定失踪者問題啓発集会（救う会徳島主催）

●阿南市・文化会館

●常務理事岡田・理事三宅が参加

[調査会NEWS 629](20.5.15)

■ありがとうございました

荒木和博

昨日は調査会主催の集会に多数の皆様がおいでいただき、また全国でインターネットを通じ中継でご覧いただき、ありがとうございました。さらに会場で、あるいはメール等で激励、貴重なご意見等も賜り心より御礼申し上げます。

私自身、普段講演やスピーチの場で、お聞きいただいている方の反応やご意見を受けて、色々と気づくことが少なくないのですが、今回自分の頭が整理できたのは、やはり「権力との距離感」という問題だったように思います。もちろん、私たち自身様々な政府機関の方々と連携をとってやってはいるのですが、お互いの立場を尊重しながら、運動において一定の距離を保つことは欠かせません（個人対個人の関係は別ですが）。

もちろん、私たちも常に試行錯誤をしており、ご批判をしていただけるような（「言っても仕方ない」と思われなような）姿勢を維持していくつもりです。何かお気づきの点がありましたら今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

以下、ご参考まで昨日配布した私のお話の資料（私の個人ブログにも掲載）を付けておきます。

今後の拉致被害者救出運動に関して

荒木和博

※以下の見解は特定失踪者問題調査会代表である荒木和博の個人としての見解である。組織としての議論、決定が必要な部分がある。

目標

日本人拉致被害者全員の救出と、そのために必要不可欠である北朝鮮の自由化・民主化をめざす。

拉致事件の本質

拉致は国家主権の侵害＝戦争＝であり、独裁国家北朝鮮で起きている各種の重大な人権侵害の一つである。この認識を政府・国会・そして国民が共有しなければならない。

政府に対する姿勢

建設的緊張関係を維持し、是々非々の態度を貫く。また「北朝鮮自身が拉致問題の解決に向けて具体的な行動を取るよう求めていく」から「日本国政府の責務として拉致被害者を救出する」へと基本方針を変更するよう求める。そのためには自衛隊が様々な形で重要な役割を果たすことは必要不可欠であり、政治がその決断をするように促していく。

救出運動のあるべき姿

●9.17以前のように「北朝鮮は拉致をしていない」という勢力が存在していたときと異なり、拉致問題について一定の世論形成ができている現在、拉致被害者を救出すべきという点においては左右を問わず大きな違いは無い。ただし、それが強硬に取り返すか、あるいは話し合いで、国交正常化を通じて取り返すかの違いである。今「拉致はなかった」とか「拉致被害者は北朝鮮で死んでいくべきだ」などという人間はいないのであって、本音はともかく基本的には方法論の違いの範囲であると言える。

●したがって、現在望ましいのは運動の無理な一体化ではなく、多様性をフルに活かすところである。中央集権的な指示によるのではなく、最終的な方向に向かってそれぞれが活動しながら、可能な範囲で横の連携をとり、必要であれば共同行動を呼びかけていくことが望ましい。9.17のときも、拉致を許さないという世論があり、一方で国交正常化を目指した小泉総理・福田官房長官（当

時)・田中均アジア大洋州局長のラインがあったから、結果的にではあるが北朝鮮側に拉致を認めさせ5人を取り返すことができた。前者が欠ければ拉致問題を棚上げにした国交正常化が行われていたろうし、後者がなければ北朝鮮は今も拉致を認めていなかったかもしれない。国民が拉致問題の本質をより理解し、その解決が自らの安全を守ることだと認識していればできるだけ様々な方法でアプローチすることにより画一的、硬直化した北朝鮮の体制にくさびを打ち込み拉致被害者救出を実現することができる。今は自由主義社会の優位性を徹底的に活用するときである。

●また、人権問題の視点からは他国の拉致被害者問題、政治犯収容所問題、脱北者問題などの問題に取り組む国内外のNGOとも積極的に連携するのは当然である。北朝鮮の独裁体制が転換され、民主化・自由化が行われることによってこそ北朝鮮が現在認めていない、あるいは私たちも知らない拉致事件の被害者が救出されるのであり、逆に言えば日本人拉致問題の解決は北朝鮮の人権問題解決の突破口になりうるのである。

いくつかの試み

情報共有と救出運動の効果を高めるためのネットワークづくり

第2 救う会的組織、あるいは調査会支部のような組織は作らない。調査会としては特定失踪者問題及び政府認定者も含めた拉致問題全般への理解を深め、救出運動をより効果あるものにするため、趣旨に賛同する団体同士で情報の共有をするためのゆるやかなネットワークをつくる。救う会全国協議会への加盟未加盟は関係ないし、全国協議会の活動を阻害するものでもない。調査会は加入組織に対して責任を負わず、相互には義務も責任も指示命令系統も存在しない。もちろん調査会の活動に反対してもまったく問題ない。会費は年間1万円程度を文書通信費としていただくのみとする。

可能な範囲での集会等の開催

現在の調査活動に支障のない範囲で30人～50人程度の小規模な集会を開催する。これまで逐次開催している特定失踪者家族懇談会とも連動させた形とし、可能であれば特定失踪者家族支援委員会顧問になっている家族会メンバーにも

参加していただき、政府認定者・未認定者の垣根のない集会、登壇者と参加者が直接接触あえる集会を開催し、草の根からの拉致問題への理解を深める努力をする。開催地はできるだけこれまで集会が行われたことのない地域を選ぶ。

財政基盤の強化

政府と一定の距離を保って活動を続けるため、また情報収集をより大規模に行うため新たな財政基盤強化策を実施する。

11年間の活動を振り返って、新たな出発へ

平成9(1997)年3月家族会が設立された。救出運動はそれより早く新潟で始まり全国に広がった。当時はまだ拉致「疑惑」であった。「北朝鮮は拉致などやっていない」というのは北朝鮮や朝鮮総聯のみならず日本人の中からも聞こえていた。そんな中で家族も、救出運動に携わる者も必死で訴え、署名を集め、集会を行った。その積み重ねが9.17で金正日が拉致を認め、5人を帰国させることとして結実した。拉致問題は確実に国民的課題となり、政府も簡単には引き下がれなくなった。

しかし、私たちに慢心や甘えはなかつただろうか。時間の経過に鈍感になっていたことはなかつたろうか。救出が実現できないことを「一所懸命やっているのだから」と責任逃れはしていなかつたろうか。自らの反省を込めて、今こそ初心に戻り、そしてこの本質を見つめ、最も重要なことは何かを考えて行動しなければならないと思う。私自身について言えば、「一昨年(平成18年)中に拉致問題を解決する。それができなければ責任をとる」と公約し、その公約を果たせなかつた。責任は必ず取らなければならないが、そのためにももう一度初心に戻って再出発としたいと思うのである。

(H20.5.14)

■調査会役員の参加する講演会等の予定

(公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場合がありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります)。

★5月17日（土） 14：00～「中村三奈子さんをさがす会」集会（同会主催）

●川崎コミュニティーセンター 電話0258-35-3935

新潟県長岡市川崎6丁目

●専務理事真鍋が参加

●問い合わせ：中村クニさん（三奈子さんのお母さん 090-4543-0597）

★6月8日（日） 13:00～特定失踪者問題を考える市民集会（同集会実行委員会主催）

※当初予定は15日でしたが1週間早まりました。

●稚内市・稚内総合文化センター

●専務理事真鍋が参加

●問い合わせ： 加地隆夫実行委員長 （090-5954-4884）

★6月15日（日） 19：00～ 特定失踪者安達俊之さんを思う会集会（同会主催）

●白山市（はくさんし）白山町(しらやままち)集会場

●代表荒木が参加

●問い合わせ：河原秀昭代表（090-8704-5295）

★6月28日（土） 13：30～拉致問題講演会（庄内ブルーリボンの会主催）

●鶴岡市・中央公民館

●代表荒木が参加

●問い合わせ：佐藤忠智会長（090-7327-1346）

★6月28日（土） 18:30～拉致問題講演会（庄内ブルーリボンの会主催）

●酒田市・中央文化センター

●代表荒木が参加

●問い合わせ：佐藤忠智会長（090-7327-1346）

★7月6日（日） 13:00～「北朝鮮による拉致・人権問題を考える神奈川県民集会」（救う会神奈川主催）

このことを言って回っているのはほとんど私だけなので、何回も聞かされて「またか」と思われる人もいるでしょうが、「政府との関係」を考える上での参考までもう一度。

今から3年前、平成17年6月14日の参議院内閣委員会で、当時の細田博之官房長官は民主党の森ゆうこ議員から次のような質問を受けました。

「国民が拉致されて救出を待っているときに、我が国の政府が自分でできる、主体的にできるということを、いつまでに、どのように、何をするのか、具体的にお答えいただきたい」

細田官房長官の答弁は次のようなものでした。

「先方も政府で、彼らのこの領土の中においてはあらゆる人に対する権限を持っておりますので、これは我々が説得をして、そして彼らがついに、実は生きておりました、全員返しますと言うまで粘り強く交渉をすることが我々の今の方針でございます」

細田さんという人は正直な人なのでしょう。この内容は「北朝鮮の地に行ったら煮て食おうと焼いて食おうと北朝鮮の勝手です。日本政府は話しますが、それでだめだったら諦めて下さい」ということです。本当であれば即座に大問題になって官房長官更迭、場合によっては内閣総辞職でもおかしくない答弁だと思います。

しかし、問題は、時の官房長官が何のためらいもなくこのような答弁をしたことだけでなく、質問をした森議員もさらに真意を質さず、所属する民主党もマスコミも問題にすることさえしなかったということです。しかし、基本的にはこの方針は小泉内閣も、安倍内閣も、現在の福田内閣も変わっていません。したがって、政府との一体化をすればするほどこの範囲での「解決」しか実現可能性がなくなるということです。

本来日本の持っている力は決して小さなものではありません。政治が「救出をする」という決断さえすれば事態は一気に進むはずですが。そのためには救出運動は政府と一定の建設的な緊張関係を維持する必要があると思います。

■調査会主催緊急集会

以下の日程で調査会主催の集会を行います。当日は(株)NetLiveのご協力でインターネット生中継いたします。地方で参加できない方はぜひインターネットでご覧下さい。なお、今回は質疑も含めてすべて中継します。

ネットライブのホームページは <http://www.netlive.ne.jp/> です。

1、日時 5月14日（水）19：00～20：45

2、場所 UIゼンセン会館2階会議室（千代田区九段南4-8-16 tel03-3288-3549）

※市ヶ谷駅下車3分 靖国通りの南側（市ヶ谷駅を背にして右手）を靖国神社方向に進み三菱東京UFJ銀行市ヶ谷支店の手前を右に入ってまもなく。地下鉄は2番出口が一番近くです。

3、内容 講演「拉致事件の本質と解決への道」（調査会代表・荒木和博）
質疑他

4、参加費 500円

（今回は調査会主催の集会ですので戦略情報研究所会員の方も参加費を頂戴します）

5、備考 予約等はありません。当日会場にお越し下さい（開場は18:30頃の予定）

■調査会役員の参加する講演会等の予定

(公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場合がありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります)。

★5月17日(土) 14:00～「中村三奈子さんをさがす会」集会(同会主催)

●川崎コミュニティーセンター 電話0258-35-3935
新潟県長岡市川崎6丁目

●専務理事真鍋が参加

●問い合わせ：中村クニさん(三奈子さんのお母さん 090-4543-0597)

★6月8日(日) 13:00～特定失踪者問題を考える市民集会(同集会実行委員会主催)

※当初予定は15日でしたが1週間早まりました。

●稚内市・稚内総合文化センター

●専務理事真鍋が参加

●問い合わせ：加地隆夫実行委員長 (090-5954-4884)

★6月15日(日) 19:00～特定失踪者安達俊之さんを思う会集会(同会主催)

●白山市(はくさんし)白山町(しらやままち)集会場

●代表荒木が参加

●問い合わせ：河原秀昭代表(090-8704-5295)

★6月28日(土) 13:30～拉致問題講演会(庄内ブルーリボンの会主催)

●鶴岡市・中央公民館

●代表荒木が参加

●問い合わせ：佐藤忠智会長(090-7327-1346)

★6月28日(土) 18:30～拉致問題講演会(庄内ブルーリボンの会主催)

●酒田市・中央文化センター

ネットライブのホームページは <http://www.netlive.ne.jp/> です。

1、日時 5月14日（水）19：00～20：45

2、場所 UIゼンセン会館2階会議室（千代田区九段南4-8-16 tel03-3288-3549）

※市ヶ谷駅下車3分 靖国通りの南側（市ヶ谷駅を背にして右手）を靖国神社方向に進み三菱東京UFJ銀行市ヶ谷支店の手前を右に入ってみてもなく。地下鉄は2番出口が一番近くです。

3、内容 講演「拉致事件の本質と解決への道」（調査会代表・荒木和博）
質疑他

4、参加費 500円

（今回は調査会主催の集会ですので戦略情報研究所会員の方も参加費を頂戴します）

5、備考 予約等はありません。当日会場にお越し下さい（開場は18:30頃の予定）

■本日の読売新聞の報道について

荒木和博

今朝の朝刊トップで掲載された「横田さん夫妻、孫娘と韓国で面会案…政府が李政権に仲介要請」という記事は、官房長官や中山補佐官が否定して一段落といったところでしょうか。一体誰が流した情報なのか、何とも不思議な話です。もともと現在の北朝鮮の姿勢からして韓国がそういう提案をしても乗って来るとも思えず、韓国も北朝鮮に借りを作りたくはないでしょうから現実性の無い話だとは思っていたのですが。

ただ、私自身はキム・ヘギョンさんと横田さんご夫妻が韓国で会えるなら、それほど問題はないと思うのですが。今の日本人で、ヘギョンさんの口から「お母さんは亡くなりました」との発言が出ても信じる人はそう多くないでしょう。そして、彼女が嘘をつかざるを得なかったとしても、その嘘から何らかの新たな事実を知ることができるかも知れません。場合によっては彼女を保護できる可能性もあるわけで、9.17直後とは状況が違っているわけですから、韓国での面会が実現するならそれも一つの手だと思います。

ただ、仮にこのことが真実で、北朝鮮側も了解して実現したとしても、「拉致問題の進展」には当たりません。拉致問題の進展とは「拉致被害者を取り返す」という日本政府の当然の責務が果たされ始めたときに言うべきことです。今回の記事についてははそのうち情報源も含めて▲相が分かるのかも知れませんが、いずれにしても部分にとらわれず全体を見るように常に注意を払う必要があると思います。

■調査会役員の参加する講演会等の予定

(公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場合がありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります)。

★5月11日(日) 14:00～拉致問題教育講演会(救う会大分主催)

●大分市・大分コンパルホール(097-538-3700)

●代表荒木が参加

●問い合わせ:伊藤田雄三代表(097-534-0010)

★5月17日(土) 14:00～「中村三奈子さんをさがす会」集会(同会主催)

●川崎コミュニティーセンター 電話0258-35-3935

新潟県長岡市川崎6丁目

●専務理事真鍋が参加

●問い合わせ:中村クニさん(三奈子さんのお母さん 090-4543-0597)

★6月8日（日） 13:00～特定失踪者問題を考える市民集会（同集会実行委員会主催）

※当初予定は15日でしたが1週間早まりました。

●稚内市・稚内総合文化センター

●専務理事真鍋が参加

●問い合わせ： 加地隆夫実行委員長 （090-5954-4884）

★6月15日（日） 19:00～ 特定失踪者安達俊之さんを思う会集会（同会主催）

●白山市（はくさんし）白山町(しらやままち)集会場

●代表荒木が参加

●問い合わせ： 河原秀昭代表（090-8704-5295）

★6月28日（土） 13:30～拉致問題講演会（庄内ブルーリボンの会主催）

●鶴岡市・中央公民館

●代表荒木が参加

●問い合わせ： 佐藤忠智会長（090-7327-1346）

★6月28日（土） 18:30～拉致問題講演会（庄内ブルーリボンの会主催）

●酒田市・中央文化センター

●代表荒木が参加

●問い合わせ： 佐藤忠智会長（090-7327-1346）

★7月6日（日） 13:00～「北朝鮮による拉致・人権問題を考える神奈川県民集会」（救う会神奈川主催）

●横浜情報文化センター（みなとみらい線日本大通り駅前）

●専務理事真鍋が参加

●問い合わせ： 090（9816）2187又は

sukukaikanagawa@hotmail.com

★8月2日（土） 13:30～ 特定失踪者問題啓発集会（救う会徳島主催）

●阿南市・文化会館

●常務理事岡田・理事三宅が参加

[調査会NEWS 626](20.5.8)

■山下春夫さん失踪について新情報

昭和49（1974）年8月に小浜港近くの会社の寮を出て失踪した山下春夫さん（当時28歳）について、本日調査会事務所を村上利夫・小浜市長、池田欣一・救う会福井会長とともに山下さんのお兄さんである山下寛久さんが訪れ、調査会に対しさらに詳細な調査、1000番台リストへの変更等を要請されました。調査会からは代表荒木が対応しました。

このときのやりとりの中で寛久さんから、春夫さんの勤務していた造船会社の社長が、あるとき（おそらく当時のことと思いますがはっきりした時期は不明）見慣れない男から「あなたのドックでプラスチック船の修理の上手な職人はいますか？」と聞かれたことがあったとの話がありました。すでに社長は物故されており、この人物がどのような人であったのかは不明です。残念ながら現時点でこれ以上の情報はありますが、関連情報がないか調査したく思います。このメールニュースをご覧の方でお心当たりの点のある方はぜひご連絡下さい。

■調査会主催緊急集会のご案内

調査会では下記の日程で集会を開催いたします。急なお知らせで申し訳ありませんが、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

1、日時 5月14日（水）19：00～20：45

2、場所 UIゼンセン会館2階会議室（千代田区九段南4-8-16 tel03-3288-3549）

※市ヶ谷駅下車3分 靖国通りの南側（市ヶ谷駅を背にして右手）を靖国神社方向に進み三菱東京UFJ銀行市ヶ谷支店の手前を右に入ってまもなく。地下鉄は2番出口が一番近くです。

3、内容 講演「拉致事件の本質と解決への道」（調査会代表・荒木和博）
質疑他

4、参加費 500円

（今回は調査会主催の集会ですので戦略情報研究所会員の方も参加費を頂戴します）

5、備考 予約等はありません。当日会場にお越し下さい（開場は18:30頃の予定）

■調査会役員の参加する講演会等の予定

（公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場合もありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります）。

★5月11日（日）14:00～拉致問題教育講演会（救う会大分主催）

●大分市・大分コンパルホール（097-538-3700）

●代表荒木が参加

●問い合わせ：伊藤田雄三代表（097-534-0010）

★5月17日（土）14:00～「中村三奈子さんをさがす会」集会（同会主催）

●川崎コミュニティーセンター 電話0258-35-3935

新潟県長岡市川崎6丁目

●専務理事真鍋が参加

●問い合わせ：中村クニさん（三奈子さんのお母さん 090-4543-0597）

★6月8日（日）13:00～特定失踪者問題を考える市民集会（同集会実行委員会主催）

※当初予定は15日でしたが1週間早まりました。

●稚内市・稚内総合文化センター

●専務理事真鍋が参加

●問い合わせ： 加地隆夫実行委員長 (090-5954-4884)

★6月15日(日) 19:00～ 特定失踪者安達俊之さんを思う会集会(同会主催)

●白山市(はくさんし)白山町(しらやままち)集会場

●代表荒木が参加

●問い合わせ：河原秀昭代表(090-8704-5295)

★6月28日(土) 13:30～拉致問題講演会(庄内ブルーリボンの会主催)

●鶴岡市・中央公民館

●代表荒木が参加

●問い合わせ：佐藤忠智会長(090-7327-1346)

★6月28日(土) 18:30～拉致問題講演会(庄内ブルーリボンの会主催)

●酒田市・中央文化センター

●代表荒木が参加

●問い合わせ：佐藤忠智会長(090-7327-1346)

★7月6日(日) 13:00～「北朝鮮による拉致・人権問題を考える神奈川県民集会」(救う会神奈川主催)

●横浜情報文化センター(みなとみらい線日本大通り駅前)

●専務理事真鍋が参加

●問い合わせ：090(9816)2187又は

sukukaikanagawa@hotmail.com

★8月2日(土) 13:30～ 特定失踪者問題啓発集会(救う会徳島主催)

●阿南市・文化会館

●常務理事岡田・理事三宅が参加

●問い合わせ：陶久会長(0884-26-0090)

★8月17日(日) 13:30～公開大討論会(拉致問題を考える茨城県地方議員の会主催)

●水戸市・水戸市民会館

「車窓越しや徒歩移動中、見聞きしたことで主席に不安や不快感を抱かせること自体、外交問題化する可能性がある。（胡錦濤主席に）抗議行為や音を一切、見せず、聞かせずの警備が行われる」

今回の胡主席訪日に対する警察の警備方針はこのようなものだそうです。

確かに、警察という官庁の整合性から言えば警備の目標はそういうことでしょう。しかし、それが多くの国民の思いと一致しているかといえ、否とせざるを得ません。

毒餃子、チベット、長野での騒乱…。それらを目の当たりにして、胡錦濤総書記が来日するなら抗議の意志を表したいというのがごく普通の常識ではないでしょうか。しかし、警備の担当者からすれば、至上命題は「何も問題が起きないこと」でしかありません。それが官僚機構というものです。だからこそ長野でも暴行をはたらいた中国人は一切検挙されず、日本人やチベット人だけがApple® 圧されるのです。警察の整合性は保たれても、自由民主主義国家日本としての整合性は損なわれるということです。

さて、現在救う会全国協議会では各地で政府・拉致議連と共催の大規模集会を計画しています。たびたび「政府・議連と救う会が一体となって」という言葉も聞こえます。しかし、この「政府と一体」というのは本当に望ましいことなのか、逆に救出運動を停滞させ、拉致問題の棚上げを促進するのではないのでしょうか。

ある地域で計画されている大集会で、開催日をApple® する時点から私に出席が要請されていた集会がありました。しかし、最近になって地元から荒木の出席を取り消したい旨連絡がありました。中山恭子・首相補佐官及び佐藤勝巳・救う会全国協議会会長の意向とのことでした。私が行けば政府の批判をするので政府と共催の集会にはふさわしくないからということでしょう。その一方で中山補佐官は集会に参加した折、その地域の特定失踪者の家族と懇談の場を持ちたいとの意向を示しています。悪意で解釈すれば、これは政府批判を封じ、調査

会と失踪者家族を分断し、家族をなだめることを目的としているともとれないことはありません。

この問題が長い間解決しない責任のかなりの部分は日本政府にあります。長期に渡り（そして今も）政府が拉致事件の本質を隠蔽し、本当の意味での救出への努力を怠ってきたからこそ拉致問題は今に至っても解決していないのです。それについて、日本政府は只の一度も反省したことも、謝罪したこともありません。政府首脳であれ官僚であれ口を開けば「全力を尽くしてやっている」と言いますが、それが虚言であることは火を見るよりも明らかです。日本政府が本当に全力を尽くしてやれば、この国の底力からして、北朝鮮から情報を得て拉致被害者を特定し少なくとも何人かを取り返して来ることはさほど難しいことではありません。

しかし昨年10月末、調査会が出した要請文書の中にあるように、政府の方針は「北朝鮮自身が拉致問題の解決に向けて具体的な行動を取るよう求めていく」ことだけであり、「政府の責任として拉致被害者を取り返す」とは一言も言っていません。それが拉致問題の現状です。それどころか、古川了子さん拉致認定訴訟を通じて政府は「政府認定者と未認定者に差別をつけてはいない」と言いながら、実際にはたとえば政府の北朝鮮向け短波放送「ふるさとの風」でも、こちらからの要請にもかかわらず特定失踪者についてはメッセージの放送どころか名前の読み上げさえしていません。すべての拉致被害者を救出するつもりなどないことは明白です。

もちろん、政府の中にも、拉致問題の解決のため努力している人が何人もいます。しかし、民間の救出運動が政府と一体化したとき、運動は官僚機構、権力機構の中での整合性に合わせたものになり、内部にいる志ある人々が動くのにはマイナスにしか働きません。民間の運動は政府と一定の距離を保ち、建設的緊張関係の中で、協力すべきことは協力する、批判すべきことは批判するということが必要なのではないかと思います。

大集会をやるべきでないとは言いません。開催するために各地の救う会では大変な努力をして参加者の動員するわけで、確かに運動を活性化させることにつながるとは思います。その意味で開催地の救う会の皆さんの努力には敬意を

表しますが、「政府と一体」という全国協議会の方針は、それ自体がこれまで11年間積み上げてきた運動を後退させるものであり、特に私たちにとっては特定失踪者、未認定拉致被害者の問題を棚上げしてしまうものとして容認できるものではありません。もちろん、そのような流れは政府認定拉致被害者の救出にも明らかにマイナスです。

4月27日の国民大集会でも申しましたが、拉致問題は官僚には絶対に解決できません。官僚機構というのは多かれ少なかれ冒頭に書いた胡錦濤訪日時警備の方針のように、根本的な方向性、真理とか道理というものと全くと言っていいほど関係しないからです。逆に言えば政治が明確な決断をすれば、官僚機構はそれに従って動くのです。そのときの官僚機構の能力はもちろん民間では追隨できるものではありません。

政治を動かすのは世論であり、運動体の目的はその世論を形成していくことにあります。実際に、それがあったからこそ、この11年間に政府の対応は少しずつ変化してきたのです。重ねて言いますが、救出運動が政府との一体化をすべきではありません。一体化したい人は官僚になれば良いのであって、今は政府に対して叱咤していくべきときです。日本国の国家としての整合性を保つために、ご協力とご理解をよろしくお願い申し上げます。

■調査会役員の参加する講演会等の予定

(公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場合がありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります)。

★5月11日(日) 14:00～拉致問題教育講演会(救う会大分主催)

●大分市・大分コンパルホール(097-538-3700)

●代表荒木が参加

●問い合わせ:伊藤田雄三代表(097-534-0010)

★5月17日(土) 14:00～「中村三奈子さんをさがす会」集会(同会主催)

●川崎コミュニティーセンター 電話0258-35-3935

新潟県長岡市川崎6丁目

●専務理事真鍋が参加

●問い合わせ：中村クニさん（三奈子さんのお母さん 090-4543-0597）

★6月8日（日） 13:00～特定失踪者問題を考える市民集会（同集会実行委員会主催）

※当初予定は15日でしたが1週間早まりました。

●稚内市・稚内総合文化センター

●専務理事真鍋が参加

●問い合わせ： 加地隆夫実行委員長 （090-5954-4884）

★6月15日（日） 19:00～ 安達俊之さんを思う会集会（同会主催）

●代表荒木が参加

●問い合わせ：河原秀昭代表（090-8704-5295）

★6月28日（土） 13:30～拉致問題講演会（庄内ブルーリボンの会主催）

●鶴岡市・中央公民館

●代表荒木が参加

●問い合わせ：佐藤忠智会長（090-7327-1346）

★6月28日（土） 18:30～拉致問題講演会（庄内ブルーリボンの会主催）

●酒田市・中央文化センター

●代表荒木が参加

●問い合わせ：佐藤忠智会長（090-7327-1346）

★7月6日（日） 13:00～「北朝鮮による拉致・人権問題を考える神奈川県民集会」（救う会神奈川主催）

●横浜情報文化センター（みなとみらい線日本大通り駅前）

●専務理事真鍋が参加

●問い合わせ：090（9816）2187又は

sukukaikanagawa@hotmail.com

北朝鮮人権問題に関連する 4 団体（難民救援基金・守る会・RENK・調査会）では胡錦濤中国国家主席来日に当たり昨日下記の声明を發表しました。各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

胡錦濤中国国家主席来日に対する声明文

中国政府はオリンピック成功のためにも、チベットを初めとする全ての人権問題を改善し、
中国国内の脱北者（北朝鮮難民）の逮捕・強制送還を停止せよ！

今回、胡錦濤中国国家主席が来日いたします。私たちは、現在行われているチベットでの容赦のない弾圧、新疆ウイグル自治区での民族浄化政策、内モンゴルでのモンゴルの自治権の抑圧、中国国内の人権弁護士や民主活動家の逮捕、拘留、また、強制送還によって起きている北朝鮮難民の生命の危機など、見過ごしに出来ない人権侵害問題に抗議し、北京オリンピックの成功のためにも、ただちにこれらの人権問題を改善することを中国政府に求めます。

北朝鮮難民が生きる自由、食糧を得る自由をもとめ中国に逃れても、逮捕、強制送還されれば、強制収容所、教化所、労働鍛錬隊に送られ、酷い拷問や強制労働の運命が待ち受けています。中には公開銃殺刑に処せられた人もいます。

北朝鮮女性と中国国籍の男性の間に子どもができて、母親を不法入国者として送り返すために、6－7万人に及ぶ孤児が生み出されていると推定されています。しかも、この難民達の中には、私達

日本国と関わりのある帰国者、日本人妻、その家族達も多数含まれているのです。また、脱出した日本人拉致被害者が北朝鮮に連れ戻される可能性もあります。この人権弾圧は日本国と決して無縁のことではありません。

脱北者（北朝鮮難民）が送り返されれば、生命の危険や社会的な抑圧、迫害が及ぶのが明らかであるにもかかわらず、中国政府が強制送還をやめないのは、人道と、人権に反するだけでなく国際条約である難民条約の違反です。しかも、中国はこの条約の批准国なのです。

さらに、中国政府が事実上支援している北朝鮮政府は、日本国民を含む様々な外国国民を拉致するという国家テロを行い、その全貌はいまだに明らかになっていません。また、政治犯強制収容所に象徴される北朝鮮政府の人権弾圧に対しても、中国政府は国連人権委員会での北朝鮮人権非難決議に反対し、事実上抑圧体制を承認する姿勢を取っております。

私達は胡錦濤主席の来日に際し、以下の点を強く要請いたします。

- 1、中国政府はチベット、東トルキスタン（新疆ウイグル）、内モンゴルなどの全ての民族自決権を承認し、信仰、言論、表現、結社の自由を承認せよ。
- 2、中国政府は不当逮捕している人権運動家、民主運動家を釈放し、彼等の言論の自由を保障せよ。
- 3、中国政府は脱北者（北朝鮮難民）の不当逮捕を直ちに停止し、

彼等を難民条約の精神に則って保護し、希望する第3国への移住を認めよ。

4、日本政府は、中国政府の人権弾圧や脱北者強制送還に対し明確に抗議し、北京オリンピック成功のためにも直ちに人権改善が必要である事、また、人権改善が為されない限り、対中国への政府並びにアジア開発銀行からの経済支援、経済交流を見直さざるを得ない事を、来日する胡錦濤主席に明確に提起してください。

2008年5月3日

特定失踪者問題調査会 代表 荒木和博

(<http://www.chosa-kai.jp/>)

北朝鮮難民救援基金 事務局長 加藤博

(<http://www.asahi-net.or.jp/%7efe6h-ktu/>)

北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会 代表 三浦小太郎

(<http://homepage1.nifty.com/northkorea/>)

救え！北朝鮮の民衆／緊急行動ネットワーク（RENK）代表 李英和

(<http://www.bekkoame.ne.jp/ro/renk/>)

(以上代表者名アイウエオ順)

■調査会役員の参加する講演会等の予定

(公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場合がありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります)。

★5月11日(日) 14:00～拉致問題教育講演会(救う会大分主催)

●大分市・大分コンパルホール(097-538-3700)

●代表荒木が参加

●問い合わせ:伊藤雄三代表(097-534-0010)

★5月17日(土) 14:00～「中村三奈子さんをさがす会」集会(同会主催)

●川崎コミュニティーセンター 電話0258-35-3935

新潟県長岡市川崎6丁目

●専務理事真鍋が参加

●問い合わせ:中村クニさん(三奈子さんのお母さん 090-4543-0597)

★6月8日(日) 13:00～特定失踪者問題を考える市民集会(同集会実行委員会主催)

※当初予定は15日でしたが1週間早まりました。

●稚内市・稚内総合文化センター

●専務理事真鍋が参加

●問い合わせ:加地隆夫実行委員長(090-5954-4884)

★6月28日(土) 13:30～拉致問題講演会(庄内ブルーリボンの会主催)

●鶴岡市・中央公民館

●代表荒木が参加

●問い合わせ:佐藤忠智会長(090-7327-1346)

